

指宿市及び入来町における独居高齢者の個々の生活実態について

○ 正会員 佐藤 洋一*1
友清 貴和*2
山下 剛*3
久野 貴行*4

高齢者が自立できる社会形成に関する研究 その3

1: 研究の目的と方法

近年の高齢者福祉政策は様々な条件をふまえ、従来の『施設福祉サービス』を重視した政策から『在宅福祉サービス』重視政策、またはそれらの同時並行に政策が転換している。

こうした政策を施す際、高齢者自身を尊重した政策を推し進める一方、並行して高齢者をサポートするシステムを整えていかなければならない。

サポートするシステムとしては、行政による支援は不可欠であるが、高齢者をとりまくコミュニティとの対応関係がより高齢者には密接となる。

かりに高齢者が独居生活を営むことになっても、コミュニティと良好な関係を保ち、健康で快適な生活が保障されるべきである。

本研究はこうした社会のメカニズムを体系化し、こうした社会に対応する社会政策・高齢者福祉政策の方策を見いだそうとするものである。

鹿児島県は高齢者がいる世帯に占める独居高齢者世帯の割合は29.9% (H2. 国勢調査) で全国1位である。

前編¹⁾においては、鹿児島市の独居高齢者に関して調査・分析を行い、一応の知見を得た。

そこで本編においては、コミュニティ内容が異なると思われる指宿市及び入来町の独居高齢者に実施したヒヤリング調査を基に、これらの独居高齢者の個々の属性について把握し、鹿児島市の結果を含め分析を行った。

2: 調査の概要

2-1. 調査地域及び調査方法

調査地域は指宿市及び入来町とし、調査対象者を各市町の福祉課からランダムに紹介してもらった。【表1】

調査は対象者宅を訪問し、ヒヤリングで得た回答を当方で記入した。

2-2. 調査結果

回答を得ることができたのは指宿市51名、入来町48名の計99名であった。【表2】

2-3. 調査項目とその結果 (単純集計)

今回実施した調査の項目及びその主な結果 (単純集計) を記す。人数の合計が一定でないのは回答拒否及び分類不可のためである。【表3】

【表1】 調査地区の状況

指宿市		入来町	
高齢者人口5976人		高齢者人口1606人	
高齢化率18.7%		高齢化率23.9%	
高齢単身世帯数1062世帯		高齢単身世帯数313世帯	
単身高齢率22.1%		単身高齢率28.5%	
温泉券・乳酸飲料等を配布		温泉券・乳酸飲料等を配布	
高齢者の1戸建持家率92.0%		高齢者の1戸建持家率93.6%	

【表2】 調査結果の状況 (単位: 人)

年齢区分	調査数	性別	調査数	調査地区	調査数
65~69歳	14	男性	21	指宿市	51
70~74歳	35	女性	78	入来町	48
75~79歳	31	調査対象者男女比		21:79	
80歳以上	19	調査対象者平均年齢		77.2歳	

【表3】 調査項目及びその主な調査結果 (単純集計) (単位: 人)

調査項目	回答項目	縮	入	調査項目	回答項目	縮	入	
住居形式	持家持地	47	44	調査項目 隣人と の関係	親しい	33	25	
	持家借地	1	0		まあまあ親しい	9	16	
	民間借家	0	3		接捗程度	8	6	
	公営住宅	3	1		交際無し	1	0	
居住年数	0~9年	8	5	子供の 有無	有	39	41	
	10~19年	12	7		無	12	7	
	20~29年	9	9		子供との 別居距離	同地区内	22	9
	30~39年	4	5			県内	5	18
	40~49年	7	13			県外	12	14
50年以上	11	8	親子の 面会周期	毎日	5	3		
独居年数	0~9年	16		16	週数回	16	4	
	10~19年	21		12	月数回	5	18	
	20~29年	9		11	年数回	9	11	
	30~39年	3		4	数年1回	2	3	
40年以上	2	4	集会へ の参加	親しい 親友数	0人	21	18	
集会への参加	不参加	18			13	1~2人	16	20
	老人会のみ	21			5	3~4人	10	7
	老人会+他	5			13	5人以上	8	3
	他会のみ	7	17	独居理由 類型	積極的 独居	自立して生活できるから	15	6
独居理由 類型	積極的 独居	誰にも気兼ねしなくてよい	5		4			
		今の地域に馴染んでいる	4		1			
		消極的 独居	子供と一緒に住もうとしない		3	0		
		子供の経済が苦しい・子供宅が狭い	0		3			
		子供に迷惑をかけたくない	4		3			
		子供が帰省しても職がない	0		4			
		都会に行っても話相手がない	0	3				
保守的 独居	保守的 独居	家(本家)がある	0	3				
		墓を守らないといけない	0	2				

3. 調査結果の分析及び考察

独居高齢者の生活実態の特徴を明確にし、かつ今後の問題点について示唆し得る項目をピックアップし、それらをクロスさせて分析した結果を考察する。

3-1. 住居について。

A study on the personal life circumstance of the old living alone at Ibusuki and Iriki

A study on forming society that the old can live themselves part3

SATOU Youichi, TOMOKIYO Takakazu, YAMASITA Gow and HISANO Takayuki

住宅の持地持家率は、鹿児島市(75.5%)より指宿市(92.2%)、入来町(91.7%)が高い。

住宅内の危険箇所及び不満点を、回答してもらい列記した。【表4】

調査対象者の住宅の老朽化が問題となっている。また身体機能低下により、住宅の各箇所に不便さが感じとれたものであった。

これらの危険・不満箇所に対しての改善または対策をしている人は多い。それらは耐久性・安全性強化目的の改善が多く、快適性充実のための改善は少ない。

これらは独居高齢者が快適性充実を図るよりも、現住宅(地域)に定住志望が強いと推察される一方、『家を守る』ことが独居高齢者には重要な要素となっていることも考察される。また住替志望の人々の住替条件を満たす住宅政策も今後の社会には問題視されるであろう。

【表4】住宅内部の危険・不満箇所

住宅内部の危険・不満箇所 (単位：人)		
危険・不満箇所	鹿児島	入来
玄関及び各室の段差	8	11
住宅が狭い	0	2
住宅の老朽(自然的、害虫等理由)	3	3
住宅の雨漏り	0	2
その他(床が滑りやすい、日当たりが悪い、広い等)	10	4

3-2. 住宅周辺環境について

住宅周辺環境で問題となっている主なものの1つに、自然災害による環境への不満が挙げられる。【表5】

住宅内部の改善が独居高齢者には限界範囲と思われ、住宅周辺の環境は悪化している状況にある。今後、こうした問題をいかに整備いくかということが課題となる。

【表5】住宅周辺環境の不満点 (単位：人)

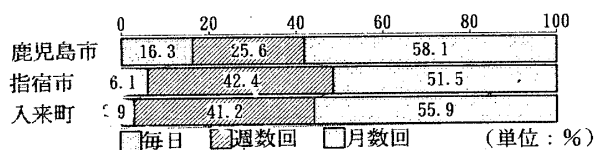
住宅周辺環境の不満点 (単位：人)		
不満点	鹿児島	入来
裏の崖崩れが心配である	10	3
前面道路からの騒音	4	1
自然災害時の住宅の耐久性	7	3
住宅周辺の水捌けが悪い	3	1
アプローチ道路が狭い	2	0
その他(スーパーが遠い、機械騒音、周辺の坂等)	0	5

3-3. 健康状態について

健康状態を通院状況からみると、4人に3人の割合で通院をしていた。

通院状況を地区別にみても、週数回から月数回が周期である通院者の割合が高い。【図1】

病状から生ずる生活障害があると回答している人の割合は、あまり地域別相違なく、約30%前後いる。【表6】



【図1】地区別にみる通院周期

【表6】病状による生活への支障

病状による生活への支障内容	(単位：人)		
	鹿児島	入来	入来
体調が優れない	0	2	1
重労働ができない	3	2	1
歩行困難で出回ることができない	5	4	4
食事療法をしなければならない	0	1	2
趣味活動・仕事の断念	5	0	0
仕事量が低下した	1	0	1
その他	0	6	2

3-4. 独居への考え方について

鹿児島市の独居高齢者の「独居であることの利点」は、『誰からも束縛されない生活』であり、本調査地域でも同様な結果を得た。

次に「独居であることの欠点」は、3つに類型し、日常生活の実用的事象に欠点があるものを(日常実用的欠点)、日常生活において精神的にその理由があるものを(日常精神的欠点)、非日常的な理由による欠点を(非日常的欠点)とした。【表7】

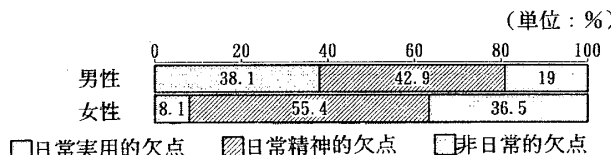
性別に見ると、男性は日常実用的欠点を挙げる人の割合が女性より高い。女性は、自然災害等の不安といった精神的側面を欠点とする人の割合が男性より高い。【図2】

また年齢別にみると、75歳以上の独居高齢者から日常実用的欠点と回答している人の割合が高くなっている。

これらはある意味で、独居高齢者特有の問題であり、これらの諸問題をいかに対処するかが、今後の高齢者福祉政策、またはコミュニティ形成の課題となる。

【表7】独居である事の欠点分類 (単位：人)

類型	内容	鹿児島	入来
日常実用的	裁縫や料理などができない	7	5
日常精神的	相談相手がいない	2	8
	寂しい	15	16
非日常的	病気時の心配	2	13
	緊急時の心配	3	4
	犯罪に対する心配	0	5
	自然災害時における心配	4	9
その他	来客時にいないとき etc.	6	6
無し		11	6



【図2】性別にみる独居である事の欠点

4. まとめ

個々の属性から独居高齢者の問題点が明確化してきた。住宅内部及び周辺環境への不満点及びこれらの不満要因が独居高齢者の「独居である事の欠点」の精神的側面に一部結びついているといった知見を得た。

注 1) 1993年度大会(関東) 学術講演梗概集参照

* 1 鹿児島大学大学院生
 * 2 鹿児島大学工学部建築学科 助教授・工博
 * 3 鹿児島大学大学院生
 * 4 鹿児島大学大学院生

Graduate School, Univ. of Kagoshima
 Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Univ. of Kagoshima, Dr. Eng
 Graduate School, Univ. of Kagoshima
 Graduate School, Univ. of Kagoshima